下仁田町自然史館収蔵品

今月の一推し♡

2024 年 12 月

局部磨製石斧（きょくぶませいせきふ）

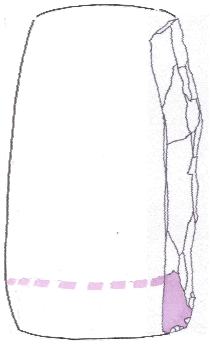
約 3.7 万年まえ、日本列島にあらわれた最初の現生人類（ホモ・サピエンス）は、岩宿遺跡をはじめ各地に遺跡を残しました。その人たちの道具を代表するのは、刃先だけ磨いた石の斧です。旧石器時代の石斧は大変貴重なもので、全国で約 1000 点ほど見つかっているだけです。金剛萱遺跡で出土。

表　　よこ　　裏

局部磨製石斧の写真

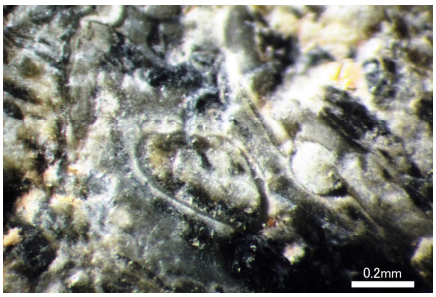
この斧は、縦に 1/4 ぐらい割れた状態です。刃先が鈍って再加工のために割ったのでしょうか。

石材は緑色岩（緑色に変質した玄武岩質の溶岩や凝灰岩）ですが、顕微鏡で詳しく調べると、内部に気泡のような丸い模様が見えます。これは海底火山で噴出した溶岩が急冷されてできた火山ガラスの構造が保存されたもので、水冷破砕岩（ハイアロクラスタイト）だったことがわかりました。このような岩石が分布するのは、関東山地の御荷鉾緑色岩類のなかでは、藤岡市・神流町境の西御荷鉾山です。直線距離で 13 km運ばれてきたものと思われます。



石斧の復元図

石斧の出土状況



表面の実体顕微鏡写真

中央の丸い模様がガラスの気泡あと

金剛萱遺跡と西御荷鉾山

金剛萱遺跡　こんごうかやいせき

2009 年、金剛萱山頂下の緩傾斜地（コンニャク畑）から偶然発見された石器をきっかけに調査がはじまりました。下仁田自然学校のなかの遺跡研究会の 16 回の発掘によって、後期旧石器時代はじめ（約 3.6 万年前）の石器が多く見つかりました。緻密な安山岩を加工して石器を作っていた場所のようです。

（参考文献）下仁田町自然史館研究報告　第 1 号　1～24

作成：金剛萱遺跡研究会（中村　由克）